

令和7年度 第1回 恵庭市総合教育会議録

- 1 日 時 令和8年1月20日(火) 11:00~12:15
- 2 場 所 中学校給食センター(研修室)
- 3 出席者 (市長)原田 裕 (教育長)岩淵 隆
(教育長職務代理人)土谷 秀樹
(教育委員)福屋 栄人、白崎 亜紀子、中山 舞
(オブザーバー)副市長 横道 義孝
(説明員)中学校給食センター長 斎藤 喜代彦
事務局
(総務部長) 広中 敦 (総務部次長)高橋 卓也
(総務課長) 北田 元樹
(教育部長) 狩野 洋一 (教育部次長)山口 晃弘
(教育総務課長) 藤野 真一郎
- 4 傍聴者 1名
- 5 議題 議題(1)第四次恵庭市教育大綱(案)について
(2)学校給食について
- 6 議事録内容

1. 市長挨拶

今年初めての総合教育会議ということで、本日はお忙しいところご出席いただきありがとうございます。教育委員の皆様におかれましては、日頃より教育行政に様々なご意見をいただき、改めて感謝申し上げます。

今日は、第四次恵庭市教育大綱について、それと学校給食について議題としています。教育大綱については平成27年に法律が変わり、当時の背景として教育部局と市長部局の連携を深めるべきだということ、市長の教育に対する関与を強めるということで、この教育会議を開くこと、教育大綱をそれぞれの自治体でつくるということで今回第四次教育大綱を審議いただきます。第三次の教育大綱についてはコロナ禍により一層ICT教育が進み、一人一台タブレットを配布するという国の方針があり、2か年に渡ってすべての小・中学生に渡すという大きな事業を行ったところであります。すでにその更新期に入っており、更新を行うこととしています。また、給食については、予算がまだ成立していませんが、まずは小学校の学校給食の無償化ということで、それに付随する形で自治体でも予算化しなければならないということでもあります。様々なご意見をいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

2. 教育長挨拶

おはようございます。原田市長には日ごろから恵庭市の子どもたちのために予算・施策等気にかけていただき心から感謝申し上げます。

今回の議題である第四次教育大綱ですが、市の第6期総合計画と合わせた時期、令和8年から17年の10年間とし総合計画の子育てや教育の分野の基本目標と整合性を図りながら策定するものであります。また、不登校・いじめ・学力等様々な課題がありますが、策定する教育大綱の下、同時に改訂されます「第6次恵庭市生涯学習基本計画」や「第四次教育推進プログラム」において個別の施策の充実・改善に努めたいと思っています。国の大きな施策として給食費の無償化、中学校の35人学級、高校の無償化とありますが、中学校の35人学級については道のほうで実質中学校1年生については導入されており、今年度については中学校2年生に向けて順次進めております。市内では恵み野中学校と恵庭中学校が該当します。

給食については、大変おいしいと評判で、今回いい機会だと思いますので、引き続きいろんなご意見をいただきまして安心・安全な給食に努めてまいりたいと思います。それぞれの立場からいろいろなご意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

3. 議題

(1) 第四次恵庭市教育大綱（案）について

○教育総務課 藤野課長より資料について概要説明

- ・第三次恵庭市教育大綱は5か年であったが、まちの最上位の計画である第6期総合計画との整合性を図るため、第四次恵庭市教育大綱は10か年とするが、5年経過時に見直しを図る。
- ・今後の予定として、今回の総合教育会議のあとパブリックコメントを実施、議会への報告を経て、最終的な教育大綱を次回の総合教育会議で確認し完成させる。

【質疑・意見】

(委員)

基本目標2基本方針の中の「令和の日本型学校教育」とはなにか。

(教育総務課長)

GIGAスクール構想が進展し、新学習指導要領を意識し「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に進めるということで、ポイントとしてはICT環境の整備の推進と教職員の負担軽減など働き方を考慮した教育の在り方などが中央教育審議会で示されるので、この度この教育大綱でもしっかり位置づけるものである。

(委員)

<重点施策>の中の1つ目の項目②について、私はすごく大事なことだと思っている。先生から言われたことをそのままやるということではなく、自分で考えて勉強する家庭学習が大事だと思っている。目標の中にも「子どもの自立性」についてもっと明確に言及してほしい。その「日本型の学校教育」というのがそういうことも含めてなのかと思ったが、今の説明を聞くとそうでもないようなので、基本方針でもっと強く出した方が

いいのではないかと思う。

(教育部次長)

たしかに一般の方には伝わりにくい表現なのかなと思う。内容には含まれているが、表現を考える。

(市長)

「令和の日本型学校教育」というのは専門家でないといけない。例えば『ICTの更なる推進』や『教員の働き方改革』などといった令和の～と説明する、自ら学ぶということもこの「令和の～」に含まれているのであればそれも入れる、入っていないのであれば別項目や注釈を作ってもいいのではないか。

(教育長)

主体的で多様な深い学びをさらに身につけようというのが次期学習指導要領のポイントになっている。3, 4年前はICTの使い方もどこかぎこちなかったが、今は先生方もうまく導入しているし、子どもたちも慣れている。委員も言ったように、子どもの主体性は次の学習指導要領でさらに実装ということなので、事務局のほうで検討したい。

(委員)

目標2の「保護者のライフステージ」というのは、どのような事例があってこの文言をいれたのか。

(教育総務課長)

第6期恵庭市総合計画の基本目標5の「目指すまちの姿」の1つ目の項目を大綱に反映させている。保育園や幼稚園から小学校に上がる際の情報共有や幼稚園教諭と小学校教諭の交流など実際にやっている部分はあるが、乳幼児期から切れ目のない支援や連携を大綱でも謳っておきたいということで入れている。

(教育部長)

発達段階で支援が必要な子は、その子にあった支援シートというものの作成し、子ども未来部や保健師が関わって支援していく。また、家庭の事情により貧困など多重的な問題を抱えている家庭については、令和8年度から「重層的支援」というのを保健福祉部で体制をつくる予定なので、そことも連携して成人になるまで支援していく。

(委員)

「保護者の」というよりは「子どもの」ということか。

(教育部次長)

表現を少し考える。

(委員)

障がいや発達に心配のある児童生徒の支援の在り方だが、今、家庭の考え方や希望が様々だと思う。学校がどう折り合っているのか、そういったところも含めて進めてほしい。また、目標1の基本方針2つ目「ひとり親家庭や生活困窮」という項目があるが、高等学校等奨学金というのもあるので、必要な時期にしっかり支援が届くように進めてほしい。

(委員)

不登校の理由は一人一人様々でなかなか大変な問題だと思う。大綱にも謳っているが、これまでどおり丁寧で適切な対応をしっかり取り組んでいただければと思う。

(2) 学校給食について

○学校給食センター 斎藤センター長より資料について概要説明

- ・現在提供しているのは小学校で3,800食、中学校で2,000食である。
- ・主食のお米については、千歳市で炊飯しそこから直接各学校に配布している。パンも直接学校に配布、麺は一度給食センターに納品される。

【質疑・意見】

(委員)

米はどうしてここで炊いていないのか。

(教育部次長)

設備がない。

(委員)

小学生は3段階の給食費の設定があるが、ボリュームが異なるのか、おかずの数異なるのか。

(学校給食センター長)

主食のボリュームが異なる。

(委員)

アレルギーについて、細やかにチェックし配慮していただき、大変感謝している。

(学校給食センター長)

アレルギーの対応については、アレルギーを持っている子の保護者あてに原材料の記載がある詳細な献立表を配布し確認してもらっている。除去食は特につくっておらず、

保護者の判断で食べるか食べないか選んでもらっている。

(委員)

小学校給食センターの調理能力が6,000食、市内の小・中学校の提供が合わせて5,800食と説明があったが、小学校給食センターで市内すべての給食を対応できるということなのか。

(学校給食センター長)

開設当時に6,000食ということなので現在それが可能かどうかはやってみないとわからない。

学校給食費について、小学校は「いわゆる給食無償化」により、予算が成立すれば国から交付される見込みである。中学生の学校給食については保護者負担額を改定する見込みである。昨今の物価上昇により、国から交付される金額を上回った場合は、予算が成立すれば、その差額分を市費でまかなうことになる。

(市長)

これから先、令和9年、10年、となったときに続けられるかはわからないので、今後保護者に負担してもらうことになる可能性もある。さらに、物価上昇がこれからも続くのか国の動向も見ながら判断していくことになるかと思う。お米の価格が相当上がっているので麺やパンに変更となれば、供給が可能なのかということも考えなくてはならない。

以上